

熊本県立第二高等学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標					
<p>本校の三綱領「自主積極・勤勉自覚・礼節協働」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざす。</p>					
2 本年度の重点目標					
<p>(1) 学力の向上～生徒が楽しみにする授業展開、読解力・論理的思考力の育成、自学力の育成 (2) 個性の伸長～部活動・生徒会活動の活性化 (3) 豊かな心の育成～規則正しい日常生活の励行、礼節指導の徹底、読書活動・学校行事の充実、体験活動・ボランティア活動の充実 (4) 国際感覚の育成～グローバルな人材交流の促進、語学運用能力の育成と機会増強 (5) 人権意識の高揚～人権教育の徹底・充実、一人一人を大切にした教育の推進 (6) 理数教育の充実～文部科学省指定SSHの全校体制の定着、科学的創造力、独創力、探究心を身につけるための指導法・評価法の研究、本県中核拠点校として他校との連携の在り方についての研究</p>					
3 自己評価結果表					
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	成果と課題	
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成	「進路指導年間計画」に沿って、各学年で段階的に自ら学ぶ姿勢と自学自習の習慣を定着させ、学力伸長の基礎を固める。	各学年における進路目標を明確化し、計画に基づいて継続的に個別に生徒の進路に働きかける指導を行うとともに、学年と教科が密接に連携して「早期学習」の指導を実施する。	月ごとに各学年による指導目標を示し、その実現に向けて継続的に取り組むことができた。「早期学習」については、クラス間の差や個人差が見られるところもあるため、今後「ガイドライン」の徹底と意識向上に向けた働きかけが必要である。
	開かれた学校づくり	読書習慣の定着	生徒の朝読書習慣定着率95%以上を目指す。1月の読書数が4冊以上の生徒を、全体の20%以上にするようとする。	年間を通して「朝読書」を継続し、全職員で取り組む。また、読書週間等の広報を実施し、1ヶ月の読書数4冊以上の生徒を昨年より増やすよう取り組むこととする。	1月のアンケート結果では、朝読書の取組が、6月の91%から9%減の82%となり、目標値には及ばなかった。1ヶ月の読書数4冊以上の生徒は6月では1年生16.8%、2年生15.2%、1月では1年生18%、2年生17%という結果になり、これも目標値には届かなかった。この結果を踏まえて、更に生徒に対する読書習慣確立のための取組を考え直す必要がある。
		SSHの推進	理数科・美術科・普通科の各学科の特色を活かして探究力を育成する。また、探究活動を推進し、創造的復興に求められる「みづから力」「きづめる力」「つなげる力」を向上させる。	各学科、各教科の特性を持って、「みづから力」「きづめる力」「つなげる力」育成のためのシラバス、評価指標を開発する。また、授業展開、教務部、進路指導部、教科会、学年部と連携して事業展開を行う。	探究科目の研究開発については、理数科1年は、授業で使用する教科書の中からテーマを見つけ、探究活動を行うことができた。普通科2年生は、生徒全員が探究した内容をポスター発表した。美術科1年は、アートサイエンス、美術探究において、事業の立ち上げ、1区目の視点による評価を行うことができた。探究型授業の研究開発については、全職員が「授業改善のための見せどころシート」を作成し、自身の授業を振り返ることができた。
	安全・地域の連携	学校生活・学校行事の充実	二高生らしく生徒一人一人が主体的かつ積極的に参加できるようにする。	時期や施設状況に応じて、できる限り学校行事を実施し、生徒会や委員会活動等とあわせて、生徒自らが発動的活動を盛んにすること、学校生活の充実や改善を図る。	震災の影響がまだ残存中、生徒会執行部が関係各所とよく連携して学校行事の成功に向けて積極的に関与することができた。文化祭では中学校と連携して企画を行った。
		情報の公開・発信	公式サイト及びPTA広報誌について内容の更なる充実を図り、生徒・保護者・卒業生、そして県民の方々へ積極的な情報発信を行う。	公式サイトの更新頻度を高め、分かりやすく見やすいデザインという観点からサイト構成を改善する。PTA広報誌委員との連絡を密にし、保護者の目線による本報の良さ的確に伝える内容を旨とする。	PTA広報誌委員との連携について打合せを頻密に行って、前回の活動のサポートやアドバイスを行うことができた。会報誌発行の前には何度も編集会議を開催して、充実した企画作成に取り組むことができた。
	安全管理	保護者・地域との連携	学年保護者会等（保護者参加率80%以上）を企画・実施する。学校行事を近隣小学校等の地域に公開していき、一高生等の内容について更なる充実（視覚化等）を図り、地域等へも積極的な情報発信を行う。	PTA総会を除く、1年1回の学年保護者会の周知に努め、極力授業を公開する。また、学校行事への参加を増やすこと、広報活動を更に推進する。そのため、一高生等の企画構成を刷新し、近隣中学校へも配付していく。	本年度震災の影響で、体育館等の施設が使用できなかったが、PTA総会では武蔵崎などを中核で開催することができた。その他の行事も、数回実施していき、安全を確保しながら、保護者の皆さまの理解により、学校活動全般にわたって大きな御支援を頂いた。
		施設設備の保守・点検	健康診断の受診率100%を目指す。改修工事に伴う騒音や振動が教育活動に影響を与えないよう点検する。	眼科講演会や性教育講演会を通して意識向上を図る。授業や学校行事の中で、健康の保持推進の指導を関係職員との共通理解のもと実施する。	受診率は各25%前後であったので再度改善は進めたい。各学年毎にテーマを絞って講演会を開催でき、生徒職員にとって有効であった。保健医職員研修会を2回実施し職員の数千人以上が参加した。10月学校安全点検を実施することができた。その安全点検の結果を踏まえて、事務部と連携を図り、校内安全と密に連携して対策を多岐に取るようであった。
	学習習慣	学習習慣の定着	学習習慣の定着を促進し、家庭学習時間の伸長を目指す。学年目標時間の充足率は80%以上とする。	各学年が掲げる学習時間の目標1年生180分、2年生200分、3年生260分を達成できるように指導を行う。調査結果をもとに、担任が面談を行い個に応じた家庭学習に対する指導を行う。	調査2週間前の学習への意識付けができた。半年では様々な取組がなされてきたが、設定した学習時間の目標を75%近くまで充足することができたが、更なる意識付けと目標達成を徹底することが必要である。
		授業上の向上	授業評価の活用	授業評価を行い、授業の改善に努める。授業評価率100%を目指す。生徒の多様な活動を取り入れた授業（アクティブラーニング等）を実施し、授業力向上を図る。	6月と11月に同一クラスで実施する。1回目の結果を踏まえて各教科で改善策を立案し、授業改善に努める。2回目の調査で評価の推移を確認し、授業力向上に繋がったかを検証する。
	キャリア教育（進路指導）	研究授業の実施	「生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための、主体的・協働的活動を取り入れた授業」「ICT機器を有効に活用した授業」という2つのテーマを掲げ、研究授業の公開授業を行う。	授業研修推進期間を今年度から前年度より4週間拡大し、すべての授業を公開する。自教科・他教科それぞれに2回以上1年生を授業し、参観率100%を目指す。また、昨年度の延べ参観者数を261人を超える参観者になるよう研究授業の情報を発信する。	教育委員会、県立教育センターの協力を得て、8月にIC-T活用の実践的な研究授業を実施することができた。また、スーパーチャーターの公開授業をはじめ、年間を通じて約20回の研究授業を実施し、いずれも盛況であった。授業研修推進期間中の参観者数は、自教科185人、他教科105人、計290人になり、目標を達成することができた。
進路目標の実現		進路実現に繋がるキャリア教育の展開	進路講演会やガイダンスを実施して生徒の進路意識の向上を図る。2年生までにインターシップの参加率で60%以上、オープンキャンパスの参加率で100%を目指す。	ガイダンスは、1年生は職業別、2年生は学問系統別に講師を招聘して実施する。G（総合的な学習の時間）の発展的授業としてインターシップやオープンキャンパスにかかる情報発信を積極的に先行し、より多くの生徒の参加を促す。	外部講師による進路講演会、同窓会の支援を受けての進路ガイダンス、大学の先生などによる進路・学習説明会を予定通り実施することができた。オープンキャンパス、インターシップについては、取組全体としては大半の生徒が参加したが、インターシップに限るが受け入れ事業所の数と職種、生徒の希望などで調整が難しいところがあり、参加率の目標値を達成することができなかった。
生徒指導	個に応じた進路指導の推進	学年に応じた自己の進路を考える機会を充実させ生徒の進路意識を高め、一人一人の進路目標の達成を目指す。	きめ細かな面談を実施し、生徒や保護者の思いを大切にしながら指導を行う。模擬面接や面接練習を定期的に行い、より効果的に個に応じた学習指導の実践につなげる。	生徒・保護者とのコミュニケーションの重要性を認識し、担任は年間目標として面接指導を実施することとした。模擬面接実施後は、希望者に対して教科担当者による解説を実施し、事後の学習につなげるための指導を行った。学習習慣の定着を促すための指導については、年間を通して継続的に個別指導を行う必要がある。	
	進路情報の発信	進路に関する適切な情報の提供	「進路だより」を年3回、「進路の手引き」を年1回発行するとともに進路指導室（別室）の稼働を活用し、生徒や保護者の意見を聞き取り、生徒・保護者の意識の啓発を行う。	進路指導部が各学年の状況等に合わせ発行する。また、学年会・進路検討会等と内容を連携して説明を行い、日常の指導や三者面談、家庭訪問等に積極的に活用する。	予定通り発行し、LHRや三者面談等で活用した。「進路の手引き」については、各学年の実態に応じ、入試別カリキュラムに使用することができた。模擬面接のシートと否の相違など、更に活用できる部分も多く、年間計画を見ながらより積極的な活動に努めた。
人権・道徳教育の推進	交通安全の推進	交通安全の強化と交通マナーの向上	車道通学生講習会や街頭指導及びCAT（サイクルアシストチーム）を中心とする生徒主体による自転車乗りの啓発活動を行う。交通安全教室を1回実施する。また、武興等での取組を自主で実施する。	二重ロック点検は時機をみて実施した。施設面は目標に到達できなかったが、校外での無断駐車等の報告は年間で4件と少なかった。交通安全教室は1年生はK2T（危険予知トレーニング）を、2・3年生は交通安全教室を実施した。	
	服装指導の推進	生徒の服装における自己管理能力の向上	服装指導の機会を減らすように、生徒の自律を促す日常的な指導を中心に生徒を自主で実施する。	平素からの声かけに加えて、年3回の全校一斉の服装指導を実施する。また、武興等での取組を自主で実施する。	生徒指導部と学年部が連携して定期的な服装指導を行った。また、違反指導については生徒指導部を徹底した。
特別支援教育の推進	人権・道徳教育の向上	教職員・生徒の相互理解の向上	生徒は年3回のLHRや日常のあらゆる活動を通して人権意識を向上させる。教職員はLHRの事前研修会と年1回の校内研修及び校外研修等を通して人権意識の向上を図る。	LHRは推進委員会が立案し、各学年での事前研修による共通理解を図つたうえで実施する。教職員は校内研修以外の各研修にも積極的に参加し、その内容を他校職員と共有する。	各学年のLHRに向けた事前研修で共通理解を得た上でLHRを実施したので、生徒の人権意識をより向上させることができた。職員の校内研修も積極的に参加し、教職員の意識が向上した。校外研修への参加も、学校行事等の兼ね合いで、必要最低限の取組にとどまった。
	命を大切にすることを育む指導	特別支援教育の推進	不登校傾向のある生徒をはじめとした生徒への支援強化	全体的な支援を更に計画的に実施するとともに、特別な支援を必要とする生徒をトリアージ的に絞り込み重点的に支援する。	ソーシャルスキルトレーニングのLHR、「いま、ここ」の発行など、全体に係る取組は計画的にできたが、個々の支援の充実とよりいっしょでトリアージ的な取組が十分にはできていなかった。今後、支援計画の作成を共有していきたい。
いじめの防止等	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育むための、「健全な命を尊重する心」の涵養	授業、ホームルーム活動、特別活動、総合的な学習の時間等すべての教育活動において、三つの目標を明確に位置づけ、道徳的実践活動を効果的に推進していく。	各学年相互研修や研修会を通じて教育担当と連携を図りながら、教職員や各科目の先生等と連携して道徳的実践活動を行うことができた。教職員の情報交換や連携の機会をもっと増やすことにより、更に全校全体での取組となるよう工夫が必要である。	
	いじめの防止等	いじめの早期発見・美態把握に努めるとともに、生徒・保護者が相談できる環境作りを行う。	日常的な生徒への声かけ及びカウンセリング指導を重視し、未然防止と早期発見に努める。併せて心のアンテナにする美態把握、LHRでのいじめ防止学習、生徒に思いを寄せさせる「今ここで」の取組等を行う。	「心のアンケート」や日常的な声かけにより、いじめの美態の把握、スクールカウンセラーとの連携ができた。また、家庭でも美態調査を行うことで、保護者にもいじめ等の防止の協力を促した。LHRでの取組も充実しつつある。	
地域との連携	指導体制の整備	いじめが発覚した場合は、組織をあげて速やかに対応し、問題解決にあたる。	いじめが発覚した場合は、いじめ問題対策委員会と速やかに対応する。その際、個人情報扱いに留意しながら、保護者とも連携し、生徒の安全と安心を最優先した姿勢で取り組む。	いじめ問題対策委員会と、「いじめを寄せた」と回答した生徒全員について実態調査をおこなった。また、いじめの疑いのある事案についても審議した。一部生徒については、三者面談やスクールカウンセラーの助言を受けながら、保護者や職員間の連携を密に図った。	
	コミュニティ・スクールの活性化	学校運営協議会の開催	コミュニティ・スクールが関係するよう、熊本県立学校、盲学校をはじめ関係各所との連携を推進し、学校運営協議会の役割を明確化する。	年間5回の運営協議会を開催した。第1回と第2回は校合同で行い、地域との連携を深めた。3校合同の意見と第二高校の役割をききながら整理し、大きな災害が発生した時に機能する組織によるよう学校の方針を明確にしていかなければならない。	
理数科の充実	理数科の充実	科学的に探究する能力と創造力の育成	理数科学校設定科目（SS、科学情報、科学探究、科学英語）と全教科による探究型授業の連携により課題研究の質を向上させる。その成果を外部に発信する。	3校合同の実務担当者会議を重ね、コミュニティ・スクールの方向性を統一するとともに、協議会委員の理解と支援を得られるよう方針を策定する。	
	美術科の充実	芸術を愛好する精神とキャリアにつながる実力力の向上	芸術表現力向上をはかり、公開展に出品する生徒を増やす。美術を通してのボランティア活動や、日頃の制作活動とあわせて生徒一人一人の特性や良さを見つめ、進路指導に繋げる。	地域での防災訓練等に参加し、地域からの信頼と相互理解に基づいた関係を構築する。	
理数科・美術科	理数科の充実	科学的に探究する能力と創造力の育成	本校美術科・普通科、更に県内の高校、全国のSSH校の探究活動と連携し、互いの研究を多様な視点から刺激し合い、議論する事業を企画する。	地域での防災訓練等に参加し、地域からの信頼と相互理解に基づいた関係を構築する。	
	美術科の充実	芸術を愛好する精神とキャリアにつながる実力力の向上	3年間の美術科行事とカリキュラムを精選し、生徒が意欲的に取り組めるよう3年間の美術科生活を行う。美術科職員全体で生徒の情報共有し、生徒や保護者の思いを大切にしながら指導を行う。	熊本市が設置した校区防災連絡会を、各小学校区ごとの自治協議会による災害対応計画を作成中である。第二高校の役割については今後も協議を継続していきたい。	

評価基準 A:4点満点 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

4 学校関係者評価	
<p>学校関係者評価委員会の総括</p> <p>○復旧工事が進んで、生徒がよい学校生活を送るために先方が尽力していることがこの会議で伝わってきた。 ○早期学習について、保護者と生徒との間に認識のずれがあった。生徒が目標を立ててそれに向かっても、何が足りないかを一人一人が向き合っていくことが大事である。 ○学校評価アンケートでは、スマートフォンSNSの使い方について、生徒はきちんと使っているという回答が多いが、保護者はその割合が生徒に比べて低い。講演会を含めて事例を交えて指導する機会を増やしてもらいたい。 ○3年生になって志望校が決まって学習に力を入れるべき時最大限に力を出せるのが第二高校の生徒だと分析している。子どもたちのことを一番に考えて努力している先生方に感謝している。子どもたちもそういう姿を見ていると思うので、これからは先生方の研修などの努力を続けてもらいたい。 ○新しい学習指導要領について、中学校では小学校から上っていくと子供たちに向けて準備しておくべきことを模索している。数年後に高校に入学していく子どもたちは、小学校で英語を学習している。道徳も教科として受けてきている。必然的になっていくこともあるだろう。先生たちも受けていかなければならないことも当然出てくるだろう。 ○交通安全について生徒の認識が甘いところもあるのではないかと。ルールがわかる情報を提供すればいい。 ○部活動の活躍を期待している。</p>	

5 検査評価	
<p>上記の自己評価結果表では、評価がAとBの項目で占められており、概ね、目標が達成されたことと、全体的に、授業の改善や管理職の連携など熊本地震からの復旧工事が進んで、教育活動が再開された部分があるが、これまでと変わらず、学校の根幹となる学習指導、進路指導、生活指導については、早期学習や情報安全教育に改善すべき点が見られるが、昨年同様と同様に本校に対する生徒及び保護者の信頼や期待の大きさが感じられる。今後も、重点目標に掲げた学力の向上、個性の伸長、豊かな心の育成、国際感覚の育成、人権意識の高揚、理数教育の充実を更に推進し、生徒一人一人を大事にした教育活動に積極的に取り組み、生徒、教師、保護者、地域が一体となった「全人教育」を推進していく。</p>	
6 次年度への課題・改善方策	
<p>○職員研修を充実させ、保護者や地域からの期待に応えられる学校組織として全人教育を推進する。 ○ICT機器を効果的に活用するとともに探究活動を更に充実させ、より深く生徒自身が学び探究を推進し、生徒の知的好奇心をかき立てる教育活動を行う。 ○生徒に寄り添った心のケアに努め、生徒一人一人がそれぞれの良さを出せる環境を整備を今後も継続していく。 ○理数科・美術科において、科学の発展に寄与する創造性豊かな人材及び芸術文化の振興に寄与できる人材の育成を引き続き図っていく。 ○学校Webページをはじめとする広報活動に力を入れ、第二高校生の活躍や学校の様子など、保護者や本校入学希望の生徒、同窓生などに引き続き情報を発信していく。</p>	